



エアツールと締付制御技術で「とことんお客様の満足を追求」

株式会社ユタニ 奈良県奈良市

株式会社ユタニは、高圧の圧縮空気を用いた工具（エアツール）や組立機械の製造販売で多様な産業をサポートする。

平成 27 年には、日本初となる「大型トラック・バスの車輪脱落事故を防止する 2 軸ホイールナット締付システム」が、近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰 2015」に選定されるなど、エアツールと締付制御技術を武器に他社にはない商品を開発、顧客の生産性向上に大きく貢献している。

同社はコーポレートスローガンとして「技術から対話へ」を掲げ、「次工程はお客様」を常に考えて、お客様のニーズにきめ細かく応えることで、期待を超える満足を追求していく。

会社概要



会社名：株式会社ユタニ
所在地：奈良市西九条町 5 丁目 4 番地の 8
電話：0742-61-1815
FAX：0742-61-9257
創業：1918（大正 7）年 3 月
設立：1943（昭和 18）年 10 月
代表者：取締役社長 油谷 敏美
資本金：43,560 千円
従業員：63 名（内正社員 63 名）
事業内容：エアツール（空気動工具）・
トルクコントロールシステム
開発設計製造販売
URL：<http://www.yutani.co.jp/>



本社社屋

創業 100 年を迎える老舗メーカー

株式会社ユタニは、大正 7 年に現社長の油谷敏美氏の祖父が、大阪市東成区南中浜町に油谷鉄工所を創設、空気動工具（エアツール）の製造販売を開始した時に始まる。

エアツールとは、コンプレッサーで圧縮した空気を作り、圧縮した空気が外気圧に戻ろうとする力を利用してモーターを回転させる仕組みである。ネジを締めるインパクトレンチや物を削るグラインダーの回転力の役割を果たし、空気圧を調節することで、ネジの締めつけ具合に強弱をつけることができる。また、手で締めていたものを空気の回転力で締めることにより、効率、生産性は格段に上がる。

その後、需要が増加していく中、昭和 18 年 10 月油谷鉄工株式会社として法人化。以後、東京営業所を皮切りに、広島、小山（栃木）、名古屋、札幌と全国各地に営業所を開設。昭和 27 年に、インパクトレンチに関する最初の特許を取得してからは、エアツールに関する数多くの特許を所有することとなる。

そして、昭和 58 年に世界初の電子技術を応用したトルクコントロールシステムである「ETC レンチシリーズ」を開発、販売を開始した。翌年には本社および工場を大阪から奈良に移転。その後、昭和 61 年に、油谷敏美氏が社長に就任。平成 4 年 7 月には社名を現社名である株式会社ユタニに変更し、2 年後の平成 30 年に創業 100 年を迎える。

エアツールの特性とは

エアツール（空気動工具）は電動工具に比べて、非常に軽くて小さいので使いやすい上、耐久性が

高く、壊れにくいという強みを持っている。そのため、自動車、建設機械、造船から航空機の微細部品まで、取り付け作業では同社のインパクトドライバ、インパクトレンチといったエアツールが有効活用されている。

新たな分野への進出

平成 23 年に経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業に同社のプロジェクト（主に航空機の部品の組み立て技術）が採択され、平成 26 年、同省の「ものづくり・商業・革新補助金」の対象にも採択された。



航空機用仮締ツール AP-5C ダブル締付保証 DGT システム

また、平成 27 年には、日本で初めて日本自動車機械工具協会にて型式認定された「大型トラック・バスの車輪脱落事故を防止する 2 輪ホイールナット締付システム」が、近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰 2015」に選定された。車輪脱落事故の大半がホイールナットの締め方が正しくない等の整備不良に起因する中、本システムは、大型トラックやバスの車輪脱落事故を防止する日本初の認定システムで、「大型車両の全車種に対応でき、締付トルク、締付本数の管理、記録、追跡が可能であり、作業データがコンピュータに残ることから非常に便利で、更なる需要拡大が見込める。今後もっと利用いただけるようコストダウンに取り組んでいく」と油谷社長は語る。

さらに、同社は精密加工や締付制御技術のノウハウを活かし、航空機産業への進出にも力を入れている。従来、狭い場所で全て手でボルトを締めていたものを、エアツールとデータの管理により、手締の 5 倍から 10 倍の速さで締付できる「航空

機組立生産性向上ツール」の開発は、航空機産業への進出を加速させるものである。



「関西ものづくり新撰 2015」に選定された大型トラック・バスの 2 輪ホイールナット締付システム

「技術から対話へ」

同社の経営基本方針、行動指針は、現社長である油谷敏美氏が社長就任した昭和 61 年に作られたものである。自らが社長として、社員の日々の活動を見ている中、「全社をあげて、顧客のニーズに対応していくには、一定の基準、方針が必要」と感じた。そこで、「楽しく働く」をモットーに掲げ、コーポレートスローガンを「技術から対話へ」とした。

油谷社長がこれまで苦労した記憶といえば、リーマンショック時のように、売上が外部環境（景気）に左右されること。そこで、「売上至上主義から、利益重視に方針を転換するには、お客様から話を聞き、できる限り期待に応えることが大事」と考え、実践した。この結果、同社の持つ特殊技術に磨きがかかり、航空機組立生産性向上ツール・システムや、大型トラック・バスの車輪脱落事故を防止する 2 軸ホイールナット締付システムで、国から様々な特許、賞を受けることにつながっていく。

今後も、営業職、技術職とも、お客様のニーズに最大限こたえるべく、コーポレートスローガンでもある「技術から対話へ」を繰り返し実践することで、常に世界初となる商品の開発に取り組んでいくことであろう。

（中井正人、山城 満）